

火災から大切な命を守るために

令和4年の火災概況

●建物火災の占める割合は69%！

盛岡消防本部管内では令和4年中に71件（令和3年は94件）の火災が発生し、8人の方が亡くなっています。

そのうち建物火災については、49件（令和3年は75件）発生しており、建物火災の占める割合は約69%と高い状況にあることから、住宅からの出火及び死者の発生を防止する必要があります。

火災件数	71件	(94件)
建物	49件	(75件)
林野	1件	(1件)
車両	17件	(12件)
その他	4人	(6件)
死者	8人	(8人)
負傷者	19人	(16人)

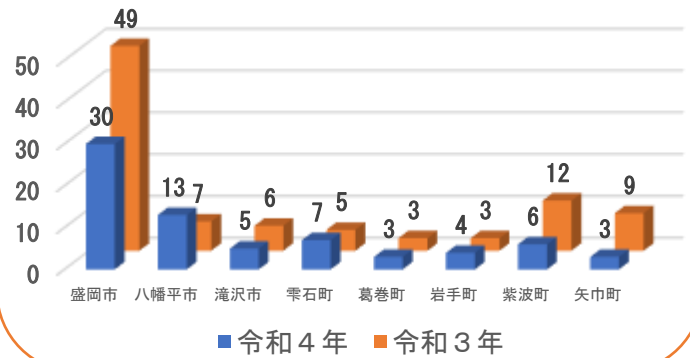
()内は令和3年の状況です。

●令和4年中の主な出火原因は？

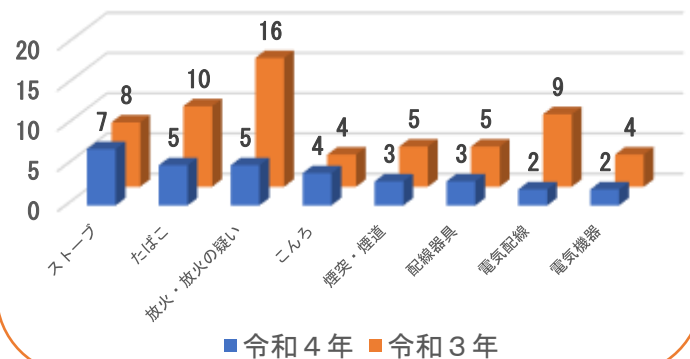
令和4年中の主な出火原因としては、「ストーブ」、「たばこ」、「放火・放火の疑い」が挙げられます。

これらの火災原因に対する防火のポイントを確認し、尊い命を火災から守りましょう。

市町ごとの火災件数



主な火災原因



火災原因に対する防火のポイント

ストーブによる火災

1 「**ストーブ**」が原因で発生する火災は、周囲の可燃物に燃え広がることや石油ストーブに灯油を給油する際に多く発生しています。

ストーブの周囲に可燃物を置かないこと、石油ストーブに給油するときは必ず消火し、給油後はカートリッジタンクの蓋に緩みがないことを確認しましょう。

たばこによる火災

2 「**たばこ**」が原因で発生する火災は、吸い殻の処理が適切でないことにより多く発生しています。吸い殻入れは蓋付きの金属容器を使用し、吸い殻を捨てる際には水をかけてから捨てましょう。

放火による火災

3 「**放火**」が原因で発生する火災は、家の周りに置いていたごみや新聞紙などの可燃物に放火されることにより多く発生しています。家の周りには可燃物を置かないことやごみは決められた日の朝に出すことなど、地域ぐるみで取り組みましょう。



煙突まわりの

低温着火にご注意ください



盛岡消防本部管内における令和4年中の火災原因の第1位は「ストーブ」でした。

また、ストーブの付属設備である「煙突・煙道」は第5位となっており、全国の順位と比較しても高く、寒冷地ならではの順位であるといえます。

特筆すべきは「煙突・煙道」火災の3件はすべて「低温着火」が原因で発生したものだということです。

低温着火の危険性を理解し、火災を予防しましょう。

低温着火とは…

木材の発火温度は260℃程度です。しかし、100℃程度の低温でも長期間加熱されると木材の水分が抜けて多孔質となり断熱性が高まるため、同一の加熱量でも温度上昇が大きくなります。さらに、木材内部で発熱した熱は蓄熱されるため、やがて火災が発生します。

わかりやすく言うと、ストーブを普段どおり使用していても、煙突から木材までの距離が近すぎ、煙突の熱がこもりやすい部分があると、何か月も何年もかけて木材が燃えやすい性質に変わってしまい、ある日、急に火事になってしまうということです。

低温着火を防ぐポイント①

めがね石は壁よりも厚いものを使用する！

壁の厚さよりめがね石が薄いため、上部の木枠と壁体が煙突の熱を受けて低温着火を起こしました。



ポンブレッド

煙突貫通部の壁の材質が木製などの可燃性である場合、めがね石の厚さは木枠や壁の厚さ以上としなければなりません。放射、対流、伝導による熱が直接壁体におよんでしまうため、低温着火の原因となります。



低温着火を防ぐポイント②

めがね石にカバーを付ける場合はすき間を作らない！

右の写真がカバーを外した状況です。炎マークの部分から出火しました。



レスキューオレンジ

木枠がめがね石よりも屋外側につきでている場合、カバーとの間に密閉空間が生じ、熱が滞留してしまうため、低温着火の原因となります。



低温着火を防ぐポイント③

DIY (Do It Yourself) をしない！

ストーブや煙突を設置する際は専門の業者に依頼するようにしましょう。



キューキューホワイト

低温着火のほとんどは施工不良が原因です。

動画配信などを参考に手軽にDIYができる時代ですが、ストーブや煙突などの火気設備は正しい知識を持って設置しなければ財産や命を失うことにつながります。

